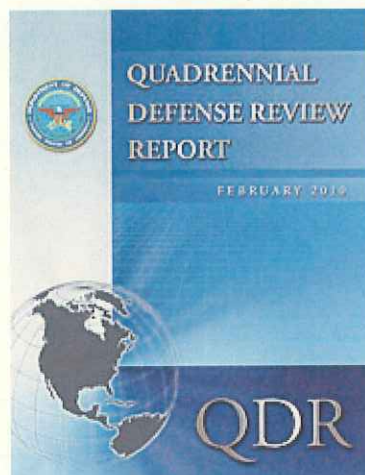


QDR2010の概要

QDR (Quadrennial Defense Review: 4年毎の国防政策の見直し)



平成22年2月12日

外務省 北米局

1. QDRの位置付けとQDR2010のポイント

2. 複雑な安全保障環境

3. 6つの主要任務と4つの優先目標

4. 米軍の態勢(Posture)

5. 同盟国等パートナーとの協調と日本

6. その他

(1) 兵士達のケア

(2) 気候変動・エネルギー問題への対応

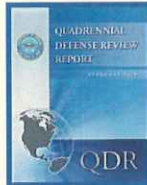
(参考)QDR2010 目次



【 QDRの位置付け 】

- 国防長官が合衆国法典第10篇第118条に基づき**4年毎に議会へ提出**することが求められている文書。
- 今後**20年**の安全保障関係を見据えた上で、**国防戦略、戦力構成、戦力近代化計画、国防インフラ、予算計画**などに関する方針を明らかにするもの。
- QDR2010は**オバマ政権にとって初**、(2006年に続いて)**戦時中に実施される2番目**のもの。

※ 過去のQDRは、1997年・2001年・2006年に発表。本QDRはミサイル防衛に関する報告書(BMDR2010)とともに、2月1日(現地時間)に発表された。



【 QDR2010のポイント 】

- 現在の紛争と将来の戦争への備えとの**バランス**を重視。
(最優先目標はイラク・アフガニスタン等、現在進行中の作戦における勝利)
- 複雑な安全保障環境(新興勢力(中国・インド)の台頭、非国家主体(テロリスト等)、大量破壊兵器の拡散)を踏まえ、**主要な地域紛争に同時に対処する「2正面作戦」**を基軸に戦力規模・編成を決定するのではなく、**多様な脅威に対応**できる柔軟な態勢を確立。
- **6つの主要任務と4つの優先目標**(①現在の戦争における勝利、②紛争の予防と抑止、③あらゆる危機への備え、④志願兵制度の維持と強化)の確立。
- **前方配備・展開**の組み合わせによる米軍の態勢整備。**同盟国等パートナーとの協調**を重視。
- **日本(及び韓国)への拡大抑止の提供**に言及。**在日米軍の長期的プレゼンスを確保**し、グアムを地域安全保障の拠点とする**再編ロードマップ合意の実施**を継続。

【 グローバルにわたる多様な脅威の台頭 】

【 世界の安全保障環境 】

■ 新興勢力の台頭



■ 非国家主体の影響増大

■ 大量破壊兵器等の拡散

【 現在・将来の作戦環境の特徴 】

■ 戦争のハイブリッド化（戦争様相の複雑化）

☆非国家主体によるハイテク技術の活用、伝統的戦争・非対称戦争の混在

■ グローバル・コモンズ（空、海、サイバー、宇宙空間）に対する侵害

☆台頭勢力・非国家主体による支配（海賊、対衛星兵器、サイバー、宇宙）
☆アンチ・アクセス能力による米軍の戦力投射能力妨害

■ 破綻国家の出現（過激主義の原因、核拡散の可能性）

【 主要国家についての評価 】



(中国)

★肯定的評価：アジア太平洋地域・グローバルな戦略環境変革の最も重大な要素の一つ。

軍の役割・任務・能力は発展、グローバルな建設的役割を強力に推進することを歓迎。

★否定的評価：透明性の欠如、人民解放軍の発展の本質、意思決定プロセスはアジア地域内外に疑念を惹起。

相互信頼の向上、誤解防止のため意思疎通のオープン・チャンネルを維持する必要性有り。

★否定的（具体的）評価：アンチ・アクセス戦略（米軍の接近を妨害・拒否する戦略）を採用。

（中距離弾道ミサイル・巡航ミサイル、先進兵器を装備する攻撃型潜水艦、長距離対空システム、電子戦・コンピュータ・ネットワーク攻撃能力、先進型戦闘機、対宇宙システム）の発展はその企図が不明。



(北朝鮮)(イラン)

★積極的な弾道ミサイルの試験・展開。湾岸戦争におけるイラク軍スカッドミサイルより正確・長射程化。

★前方展開する米軍の空軍基地・港湾・兵站基地・指揮センター等に危険が及ぶ可能性。



(ロシア)(インド)

★ロシア：大量破壊兵器拡散対抗、対テロ等共通の利益を米ロで共有。

★インド：国際秩序形成への影響力増大。軍事力（海上監視・海空阻止・戦略空輸能力）も急速に増大。

インド洋（以遠）における安全保障確保によるアジア地域への貢献。

6つの主要任務と4つの優先目標

6つの主要任務

米国防衛と文民機関に関する支援 (テロ・自然災害等多様な脅威からの防衛、被害復旧・情報収集における文民機関の支援。)

武装勢力鎮圧・安定化・対テロ作戦の成功 (回転翼機・対IED(即製爆弾)・特殊部隊・民事能力向上、地域への専門性向上。)

パートナー国の安全保障能力の構築 (言語・地域・文化的能力の強化、国連・地域の平和維持活動強化のための支援。)

アンチ・アクセス能力を有する敵勢力の抑止・侵略の排除 (統合空・海戦闘コンセプトの発展、長距離打撃能力の強化、前方展開の態勢と基地インフラの強化、宇宙へのアクセス。)

大量破壊兵器の拡散防止・対処 (テロリストによる核攻撃からの防衛、核物質の防護、非伝統的な化学物質等の研究・対策。)

サイバー空間における効果的対応 (国防省の15,000のネットワーク・7,000,000のコンピュータ防護を考慮。サイバー作戦の指揮集権化(戦略軍隷下にサイバー・コマンド設立)、他省庁(国土安全保障省等)との協同。)

4つの優先目標 (4つの「P」)

現在の戦争における勝利



- ☆アフガニスタン「52,000人(2009年1月以来)増派を含む100,000人態勢と多国間協力。」
 - 米軍・NATO等・アフガン治安部隊によるタリバンのモメンタム減退とアル・カイダ打倒。
 - 2011年7月までのアフガンへの治安権限移譲のため、アフガン治安部隊・政府機関の育成。
- ☆イラク「戦闘作戦から安定化作戦への移行(2011年末に完全撤退)」
 - 2010年8月31日までに、作戦の焦点は戦闘作戦からイラク治安部隊の訓練・助言へと移行。

紛争の予防と抑止

- ☆多様な能力・態勢・取組による紛争の予防と抑止。
 - 前方配備・ローテーション展開、事前集積、海外施設、国際的合意によるグローバル態勢確立。
 - 大量破壊兵器、宇宙、サイバーによる攻撃への能力向上。
 - 同盟国・パートナーへのコミットメント増強。前方プレゼンス、ミサイル防衛含む通常兵器、核拡大抑止の組み合わせ。

あらゆる危機への備え

- ☆対テロ戦、アンチ・アクセス能力・核兵器を有する敵、サイバー戦、大規模自然災害等への備え。

志願兵制度の維持と強化



- ☆増加する戦闘ストレス、自殺、離婚の懸案事項を受け、健全な志願兵制度の維持を政策のコア化。
 - 兵士の心身のケア、家族・傷病兵に対する支援、指導者育成プログラム等の充実。

態勢構築のための原則

- 前方配備・ローテーション展開は引き続き重要。
- 同盟国へのコミットメントを確実にする恒久的な海外プレゼンスと多様な脅威に対応する柔軟な能力とのバランス保持。
- パートナーとの関係維持によるアクセスの確保。
- 安定的な影響力とホスト・ネーションによる歓迎。
- 戦略環境の変化への継続的な適応。

【ヨーロッパ】

- 陸軍：4つのBCT（旅団戦闘チーム）、軍団司令部の維持。
- ミサイル防衛態勢の発展と海軍の前方展開の強化。



【中 東】

- イラクは外交・文民による役割へと逐次移行。
- アフガニスタンでは現在のレベルを維持。
- その他の地域は、米軍インフラの脆弱性を克服するためのアクセスを拡大。



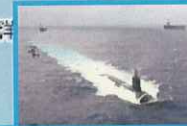
【アフリカ】

- 限定的な展開によるプレゼンスの維持。
- 民軍関係の重視、ヨーロッパ同盟国との協力。



【アジア・太平洋】

- 前方配備・展開の組み合わせ。
- アジア太平洋地域の同盟・パートナーシップ強化。（同時に同盟国等による貢献を促進）
- 韓国への戦時作戦統制権の移譲（2012年）を含み、韓国軍による積極的な役割を期待、より柔軟な（flexible）態勢を確立。
- アクセス拒否・地域拒否能力に対応する更なる前方展開プレゼンス増大（海、空、宇宙、サイバー空間へのアクセス確保）。
- シンガポールの基地は不可欠な存在。
- 西太平洋における統合・共同訓練の実施。（人道支援・災害対処・海上安全保障）



【西半球（中南米）】

- 限定的なプレゼンスのみ維持。
- 密輸・大量破壊兵器の監視、対テロ、人道支援・災害対処。

地域（国家）	協調の方向性
ヨーロッパ	➢米国の安全保障の中心は、NATO等強力な大西洋パートナーシップ（ISAFに貢献するNATO・EUメンバー列挙）。 ➢歴史・利益を共有する英国との同盟は安定した絆、アフガニスタン・イラクで強化。
ロシア	➢米ロは多くの利益を共有。新START条約の発展、北極海の利用、効果的なミサイル防衛態勢構築のため協力。 ➢ロシアの隣国には、完全な独立・主権国家として関与を継続。
北東アジア	➢主要同盟国（日本・韓国）との緊密な共同。抑止と防衛能力の強化、2国間・地域・グローバルに及ぶ包括的同盟を構築するために、合意された計画・共有ビジョンを実行。
太平洋	➢グローバルな安全保障の課題に対する不可欠な協力のため、豪州とのパートナーシップ深化。
東南アジア	➢長期間にわたる同盟国であるタイ・フィリピンとの同盟強化。対テロ・対麻薬作戦、人道支援におけるシンガポール・インドネシア・マレーシア・ベトナムとの協力を深化。
中国	➢米中相互の利益を強化する形で、信頼性の向上、相互不信を減少する多角的プロセスを採用。 ➢紛争のリスクを減少するため、意思疎通のオープン・チャンネルを維持。
インド	➢海賊対策、PKO、人道・災害支援分野における影響力を活かし、アジアの安全保障に貢献。 ➢インド洋の安定に死活的利益を有する米国にとり、インド洋の安全保障を担うインドは重要なパートナー。

※このほか、中東（イスラエル等）、アフリカ（スーダン・ソマリア等破綻国家）、西半球（メキシコ・ブラジル等）との協調の方向性を列挙。

日本への具体的言及

➢**日本（及び韓国）への拡大抑止**の提供を含め、地域の安定を維持し、同盟国の安全保障を確実にするため、必要に応じ、防衛のプレゼンスを継続。

➢**日本とは、在日米軍の長期的プレゼンスを確保し、米国領土の最も西方に位置するグアムを地域の安全保障のための拠点とする2国間の再編ロードマップ合意の実施を継続。**



【米海軍と行動する海自艦船】
前方はシーウルフ級攻撃潜水艦。後方は空母
ジョージワシントンと海上自衛隊DDH「ひゅうが」。
（QDR2010に掲載された日本関連の写真。）

その他のQDR2010の特徴として、①**兵士達のケア**(TAKING CARE OF OUR PEOPLE)が大項目で取り挙げられていること、非軍事的分野である②**気候変動・エネルギー問題への対応**に言及されていることがある。

兵士達のケア

- **傷病軍人に対するケア**（最も高い優先順位と位置付け、予算は9%増加(前年比)。)
- **海外展開テンポの適切な管理**（展開テンポの改善(現役:1年展開・2年国内)。在韓米軍は前方展開→家族帯同の前方駐留へ)
(※現在は1年展開:1年国内)
- **家族支援**（家族支援プログラムは41%増加(前年比)。教育活動スクールの改築。)



気候変動・エネルギー問題への対応

- 気候変動が食糧・水不足等につながり、地域の不安定化や紛争の原因となる。
- HA/DR(人道支援・災害対処)活動のニーズの高まりへの対応。
- 北極圏の活動範囲の拡大に伴う他国との共同。
- エネルギー効率化への投資。



- 米軍によるエネルギーの効率的運用（代替燃料、ハイブリッド・電気自動車の使用等）。

(序文: ゲイツ国防長官)
(Executive Summary)
(導 入)

1. 国防政策

- (1) 複雑な戦略環境
- (2) 米国の国益と軍事力の役割
- (3) 米国の国防目標

2. 戦力のリバランス

- (1) 米国本土の防衛と文民機関の支援
- (2) 武装勢力鎮圧作戦(Counterinsurgency)、安定化作戦、対テロ作戦の成功
- (3) パートナー国の安全保障能力の構築
- (4) アクセス拒否戦略環境下における抑止・侵略の排除
- (5) 大量破壊兵器の拡散防止・対処
- (6) サイバー空間における効果的対応
- (7) 各軍の更なる発展の方向性
- (8) 部隊の規模と編成
- (9) 2011～2015年度における米軍の主要な編成

3. 軍人・軍属とその家族のケア

- (1) 傷病軍人に対するケア
- (2) 部隊の展開期間の管理
- (3) 募集と維持
- (4) 家族支援
- (5) 予備役の適切な管理
- (6) 将来の指導者の育成
- (7) 国防省全体の人的資源の発展

4. 関係の強化

- (1) 海外の主要なパートナーとの関係強化
- (2) 米軍の態勢の役割
- (3) 米国内の省庁間パートナーシップの強化

5. 国防省の業務改革

- (1) 他国への安全保障支援の改革
- (2) 調達改革
- (3) 迅速な調達能力の制度化
- (4) 産業基盤の強化
- (5) 米国の輸出管理システムの改革
- (6) 気候・エネルギーに対する戦略的アプローチ

6. リスク管理のための枠組み

- (1) 作戦上のリスク
- (2) 部隊管理上のリスク
- (3) 制度上のリスク
- (4) 将来における課題に対するリスク
- (5) 戦略的・軍事的・政治的リスク

(結 論)
(マレン統合参謀本部議長の評価)